

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	名古屋大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ナゴヤダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F123110106429
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	愛知県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	科目名	キャリアデザイン演習、キャリアデザイン実習
	学部・研究科等名	教育学部
	担当教職員名・役職	大西隆信（非常勤講師）
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	37
	受入企業等数	47
	受入企業等名	
	インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	インターンシップ先にもよるが、多くのインターンシップ先では社員と協働して、企画・立案をして、役員等の前でプレゼンテーションをしたり、商品としてリリースしたりしている。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部3年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	演習2単位（事前指導）、実習2単位（インターンシップと事後指導（発表会、報告書作成を含む））
	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている	
	2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている	
	3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている	

要素③		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	不定期ではあるが、必要に応じて訪問し、面談している。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	全15回の手前学習の中で、インターンシップの趣旨や目的の理解（第1回）、インターンシップ中の目標設定等を行う（第2回）とともに、企業研究（第3～5回）やビジネスマナー研修（第6回）、インターンシップ中のリスクマネジメント（第13回）等を実施している。
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	就業体験と自らの学びがどのようにつながったのかを振り返る目的で、インターンシップ後のグループワークや企業担当者を招いた報告会を実施している。	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	大学の教員が必要に応じてインターンシップ中に学生と連絡・面談を行い、学生がインターンシップ中に作成する日誌も用いながら、事前学習の際に設定したインターンシップ中の目標達成に向けた指導を行っている。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	キャリアデザイン演習及びキャリアデザイン実習の授業アンケートのほか、インターンシップ実施報告書（日誌のようなA4用紙1ページのもの）と、A4用紙2ページの最終報告書（冊子）に、「インターンシップに参加するにあたっての目標」「その達成度」「インターンシップに参加して新たに発見したこと、得られたこと」などを文章で書かせ、振り返りの指導を行ったり、事後指導や就職相談に役立てている。とくに、これまでの大学での学びとこれからの大学での学びと関わらせて振り返らせることで、大学での学び、インターンシップ先での学びを独立させず、それぞれの成果が往還できるように努めている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
		3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	実施期間は5日間を2回（計10日間）
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	コロナ禍に限って認めている。1日なら10回、3日なら3回～4回。
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
5-3.上記回答内容に関する詳細	企業名は公表していない	

要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	インターンシップを担当した者に、秀・優・良・可・不可の5段階で、インターンシップ中の評価をしてもらう。また、途中で問題等が生じたときには速やかに連絡を取るよう依頼している。学生の自己開発によるインターンシップを除いた学部の授業の一環として実施するインターンシップに限るが、事前に交わし書きをして、授業の一環であること、学生の社会的な学びであることを理解してもらっているためにできている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	
問い合わせ先	大学等名	名古屋大学
	担当部署名	文系教務課
	担当者役職名	係長
	担当者氏名	松岡 奈津子
	電話番号	052-789-2606
	メールアドレス	educa@adm.nagoya-u.ac.jp